

CIG 区民サポーター会議からの意見

1. みどりの質の向上

<みどりの量の確保はもちろんのこと、質を高めることが必要>

- 区全体の緑被率は 18%程度だが、臨海部の緑の多さによるところが大きい。白河や亀戸などでは緑被率が低い。
- 北砂三・四・五丁目地区は木密地域であり、公園が不足している。少しでも土地をつくり、小公園をつくる必要がある。その際には、大きな公園につながる緑の回廊として、ネットワークを形成していく発想も必要である。
- 城東地区では量を増やすことには限界がある。モデルになるような公園をつくることや、街路樹をきれいにすることなど、質を高めていくことが必要である。

<素敵な空間をつくることが必要>

- 皆が見て素敵だと思う空間をつくるのが大切である。居心地のよいところには、自然に人が集まってくる。
- それぞれの空間のコンセプトや、よい空間の指標を明らかにすることも必要である。

<みどりの利用価値を高めることが必要>

- これまでは緑地をつくるのが主眼にあったが、存在価値だけではなく、利用価値を高める発想が大切である。
- 利用価値を高める発想で、ポケットエコスペースや公園のみどり、湾岸沿いの生物多様性を、我々の生活や教育・まちづくりに活かす視点が必要である。
- マンションの緑とまちのみどりをつなぐ工夫も必要である。

<維持管理の質を高めることが必要>

- 質を高める上では、維持管理の質や管理のあり方も問題である。
- 区内の街路樹は、剪定の質が低いところが多い。
- 区立公園は管理が対処療法になっている。きめ細やかな管理の方法と仕組みが必要である。
- 江東区はみどりが多く、よく管理されているものの、業者による公園管理は画一的になっている例もあり、生き物や植物への配慮がないといった問題もみられる。
- 河川の護岸が整備されるなど、水辺の資源も豊富だが、住民に親しんでもらうマネジメントが足りない。
- みどりの維持管理について、正しく理解してもらうことも大切である。

2. 生物多様性の確保

<生物多様性を高めることが必要>

- 江東区は生き物の生息地としてのポテンシャルが高い。東京湾や荒川、隅田川の上流からの生き物の供給があり、神奈川県と千葉県を流れる風の流れに乗ってくる生き物もいる。独自の生物多様性のポテンシャルを引き出すことが大切である。
- 花壇は、同じ花で統一するものと思われがちだが、自然界と同様に、色々な種が共存することで生物多様性が高まる。生物多様性のガーデンは、ただ野放しにしているのとは違う。「美しくナチュラル」、「ローメンテ・ローコスト」が理想である。
- 外来種を完全に排除することは難しいが、侵略的外来生物は排除しつつ、色々な生き物が生きていけるような、江東区らしいみどりや花壇がつけるとよい。

<みどりのネットワークづくりが必要>

- 江東区は一つ一つ素晴らしい資源があるが、点在しているだけで、ネットワークとしてつながっていない。
- 荒川からきた生き物を、区内にうまく誘導する緑の回廊がないところもある。
- 点在するポケットエコスペースをつなげていくことが必要である。
- 民間の土地も含めて、みどりをつなげていく仕掛けができればよいのではないか。

3. 水辺の活用

- 江東区は、江戸時代から川の流れに沿ってまちが形成されてきた。水辺は江東区ならではの資源だが、十分に活かされていない。
- 水辺の回遊性を高めたい。水辺と緑のネットワークづくりが区の方針だが、プライバシーの関係で住民からの反対があり、散歩道が繋がっていない場所もある。

4. 公園の活用

- 近所の小さい公園はあまりきれいではなく、使われていない。小さい公園はたくさんあるが、うまく活かされていない。
- 公園のダスト舗装はなくしてほしい。管理が楽で安価だが、住民に親しんでもらえるよい公園にはならない。
- 公園の草の生えっぱなしや虫の鳴き声に苦情を出す住民もいるが、多少草が茂っていてもよい。子どもが虫の観察に興味を持てば、親もついてくるようになり、関心が高まる
- 公園の完成度が低い。
- 公園などで釣ったものを食べることができれば大きな魅力だと思う。
- 長期未整備公園については、公園として整備していく必要がある。

5. コミュニティガーデン活動

- 江東区では、コミュニティガーデンの取組みが進んでいる。コミュニティガーデンの取組みは大切だと思う。
- 幼稚園や学校、老人会など色々な分野で、花づくりに力を入れているのはよいことだと思う。
- コミュニティガーデンに参加している人の8割がマンションに住んでいる人である。
- 豊洲三丁目公園では、新しくできたマンションの住民が、地域貢献としてコミュニティガーデンに取り組んでいる。コミュニティづくりや地域貢献に対する意識がより高いのではないか。
- 他の地域では、「あたたかい」や「ひだまり」などがキーワードであり、自分たちの居場所という感覚が強い。自分たちの居場所をきれいにしたいという感覚なのだろう。

6. 区民意識

<水や緑への関心を高めてもらうことが大切>

- 区内にはこれほどよい資源がありながら、緑と水に対する区民の関心が低い。
- 緑と水を大切にす気持ちになってもらう取組みが不十分ではないか。
- 日本人が潜在的に持っている、緑や水を大切にす感性に火をつける必要がある。例えば、低水路でカヌーや釣りができるようにすれば、みんなが親しむと思う。
- 横十間川親水公園の花菖蒲園は、かつては区民参加で手入れなどが行われていたそうだ。とてもよい場所になっている。あのようなものを大規模にやればよいと思う。
- 一般的な人は、屋上菜園で育てた野菜でも、虫食いは嫌がられる。逆に、葉を撒いていても虫食いでなければ安心だと言う。虫食いの葉っぱは安全だと言っても理屈でしかない。
- 小さい子どもに土いじりを体験させたいという親が多い。

<区民の主体的な行動が重要>

- 区民も主体性を持ち、自分たちが率先して取組んだり仕掛けたりするといった考えが必要である。
- 緑の基本計画の中では、行政・区民・NPOなどの主体の役割分担や、協働で取組むことなどについて、きちんと計画を立てればよいのではないか。
- 民間の力を活かしていくことで、区民も「自分事」の意識を持ち、主体的に行動していく必要がある。

7. ボランティア活動の継続性

- コミュニティガーデンがなくなってしまう要因として、継続する人がいなくなるのが一番大きい。
- ポケットエコスペースは、区民ボランティアによる維持管理を行っているが、高齢化が進んでおり、活動が追いつかない状況である。ボランティアが維持管理をするという考え方には限界がある。
- 若いメンバーや新しいメンバーも参加し、人が入替りながら活動を継続できる仕組みが必要である。
- 若い人がボランティア活動に参加したとしても、継続が難しい。維持管理は継続的に取り組む必要がある。
- ボランティアのメンバーは、意欲はあるが、老いてくると足腰も悪くなってくる。月 1 回の活動も、義務感になってしまうと辛くなる。もう少し参加しやすい形で、たくさん人が集まり、継続的に動くようなものになればよい。
- 緑地や公園の維持管理を考えると、ボランティアも継続的に取組んでいける制度を考える必要がある。ボランティア活動は、江東区では 20 年ほどの歴史がある。これまでの経緯を踏まえ、次のステージを考える段階にある。

8. 活動推進のアイデア

<褒められる仕組み・やりがいが必要>

- ボランティアに参加する人が、周りから認められたり褒められたりすることで、やりがいを見つけて成長できるとよい。
- 町会でボランティア活動をしている人に顕彰することも考えられる。
- 義務やノルマとして押し付けるのではなく、社会奉仕であるということを認識してもらうことも大切である。
- ボランティアや公園を管理した業者に対して、行政が評価し、表彰する仕組みがあるとよい。
- コミュニティガーデンなどの活動にも表彰をすると、やりがいが出て、継続性が高まるのではないかとよい。

<活動拠点が必要>

- 全区的にボランティア活動を広げていくためには、活動の拠点づくりが必須である。
- みどりのボランティア団体の活動拠点として、情報発信の場、集まれる場がほしい。
- 文化センターはあるが、アウトドア活動の拠点が無い。例えば、「園芸教室で土をいじろう」、「外で野草の観察しよう」といった場合に、適当な場がない。
- 病院の一角など既存の施設が活用できないか。病院の庭が充実しているということは、療養にもよい。
- 長期未整備公園の用地に、自然系の博物館やビジターセンターのようなものをつくれるとよい。砂村ネギの栽培などもできるとよい。打合せができる場所もあるとよい。
- 管理棟のような建物を併設し、そこを拠点として市民団体が公園管理を担う形にし、プレイパークづくりなどを進めていくことも考えられる。
- ボランティアを継続していくためには、活動の裾野を広げることが必要である。一般の人の理解が広がれば、活動に参加してくれる人も出てくる。そのためにはまず、現在活動している人が活動しやすい拠点が必要である。活動拠点から一般の区民に、みどりや自然に関する知識やルールを広めていけるとよい。

<資金調達の工夫が必要>

- 東京都公園協会には緑の基金があるが、江東区には緑に特化した基金がない。
- 企業が緑関連分野に投資すると税負担が軽減されるような制度ができれば、もっとお金が出しやすくなると思う。
- 行政だけでなく、企業の社会貢献などを生かすような仕組みがあればよい。
- 公園に自動販売機を設置したり、ドライフラワーをつくってバザーやフリーマーケットで販売し、その売上げの一部を公園の維持管理費として還元するなど、自分たちでお金を生み出す仕組みをつくとよい。
- 資金を確保して、色々やりたい区民の方はたくさんいる。それをサポートするような制度があるとよい。

<コミュニティガーデン活動の推進>

- コミュニティガーデンは、現在は区の公園など公共の土地で実施しているが、マンションなどの民有地でも、公開緑地等としてみどりの維持管理に取組む際に、区サポートがあるとよい。
- ベランダ緑化には区の支援があるが、ベランダだけではなく、マンション前や壁面など、地域の目に触れるところにも支援が広がると、「みんなの花壇」として楽しんでもらえるのではないかとよい。
- 江東区には公営住宅が多いが、公営住宅の緑地が雑草だらけになっている。苗の供給基地として活用してはどう

か。「花苗をつかって売ると30円になる」といった仕組みがあれば、モチベーションも高まり、もったきれいになると思う。